

# 食事に関する習慣と規範意識に関する調査報告書

平成22年1月

内閣府 食育推進室

# 目 次

調査の概要	1
調査結果の概要	2
調査結果のポイント	2
1. 食事に関する習慣について	3
(1) 家族全員で夕食を食べる頻度	3
現在	3
幼少時(小学生の頃)	5
(2) 朝食の摂取状況	8
(3) 栄養バランスの意識	10
2. 食事に関する規範意識について	12
(1) 箸の使い方(嫌い箸)に対する意識	12
(2) 食事のマナーに対する意識	21
隣のテーブルでの他人の行為に対する意識	21
同じテーブルでの家族の行為に対する意識	35
(3) 公共の場でのマナーに対する意識	49
(4) 食事のマナー・作法で行っていること	69
配膳の位置	69
箸の持ち方	71
箸の使い方	74
食事のマナー	84
(5) 公共の場でのマナーで行っていること	99
(6) 食事のマナー・作法としての認識状況	119
箸の使い方	119
食事のマナー	124
(7) 食事のマナー・作法の習得場所	131
(8) 幼少時(小学生の頃)に家族の食卓で教えられたマナー・作法	134
(9) 親の立場になった時に子どもに教えた食事のマナー・作法	137
(10) 食事のマナー・作法に対する姿勢	141
(11) 食事のマナー・作法を身につけている者のイメージ	147
3. 「食育」に関する周知度・関心度について	150
(1) 食育の周知度	150
(2) 食育の関心度	152
4. 食事のマナーと食習慣や食育への関心との相関関係(得点階層別の結果)	154
(1) 食事のマナーと食事に関する習慣との相関関係	154
食事のマナーと家族全員で夕食を食べる頻度(現在)	154
食事のマナーと家族全員で夕食を食べる頻度(幼少時)	155
食事のマナーと朝食の摂取状況	156
食事のマナーと栄養バランスの意識	157
(2) 食事のマナーと食育への関心等との相関関係	158
食事のマナーと食育の周知度	158
食事のマナーと食育への関心度	159
(3) 食事のマナーと姿勢との相関関係	160
(4) 食事のマナーと食事のマナーを身につけている者のイメージとの相関関係	163
質問票	164

## 調査の概要

1. 調査目的： 食事のマナーや作法の各事項に対する国民の意識（食事のマナー・作法についてのマナーとしての意識やマナーを身につけていない者への不快感）や取組状況、マナーを身につけた場所、食事のマナーへのイメージ像を把握することにより、食事の正しいマナーや作法を含む食育の今後の推進に当たっての基礎資料とすることを目的として実施した。
2. 調査項目： 食生活等の実態と「食育」に対する意識・関心について
  - ・食事に関する習慣について
  - ・食事に関する規範意識について
  - ・食育への関心
3. 調査対象： 全国の18歳以上の男女
4. 調査期間： 平成21年11月19日（木）～12月4日（金）
5. 調査方法： 調査会社の登録モニターに対するインターネット調査
6. サンプル数： 1,820人
7. 調査会社： 株式会社メルリンクス
8. 属性別の回収結果：

		合計	男性	女性	WB
		人	人	人	人
総 数		1820	910	910	1820
年 代 別	18歳～19歳	260	130	260	47
	20歳～29歳	260	130	260	269
	30歳～39歳	260	130	260	318
	40歳～49歳	260	130	260	272
	50歳～59歳	260	130	260	327
	60歳～69歳	260	130	260	274
	70歳以上	260	130	260	313
地 域 別	北海道	83	36	47	
	東北地方	86	41	45	
	関東地方	848	453	395	
	中部地方	249	123	126	
	近畿地方	336	148	188	
	中国地方	70	37	33	
	四国地方	36	16	20	
九州地方	112	56	5		

ウェイトバック（WB）について：

以下の調査結果の分析は、調査総数（1820人）に対する結果については、我が国の人口の年齢別の構成比に応じてデータに重みをつけた集計結果（当該箇所を「WB値」と表示）によっており、年齢別の比較、その他の分析は調査サンプルによる単純集計結果によっている（調査自体は各年齢階層・男女ともに同数のサンプル数。）。